



若い葉は全面に白綿毛をかぶるが、育つと表面は緑色になって、裏面だけに白毛が残る。（この毛を集めたものがモグサ）

草餅やモグサの原料として昔から親しまれてきた野草。山野一帯の日当たりのよい所に生える。特有の強い香りがする。夏に茎の先に茶色の小さな花が群がって咲く。若葉はトリカブト（猛毒）（10ページ）と似ているので注意が必要である。





毒 フクジュソウ



早春に美しい鮮黄色の花をつける。

早春に咲く縁起植物として栽培の歴史は古いが、有毒である。林内、沢の傾斜地などに生える。花の後に伸びる葉がシャク（13 ページ）の葉と似ている。

有毒部位：全草、特に根

有毒成分：シマリン、アドニトキシン

中毒症状：おう吐、呼吸麻痺、心臓麻痺→死亡